



# 静中・静高 関東同窓会 会報

静中・静高関東同窓会  
会報 第14号  
昭和56年11月25日発行  
編集人 月見里得知郎

## 第8回

### 関東同窓会

## 二百八十余名

## 集い

## 盛大に開かる

### 築地スエヒロにて

関東同窓会第8回総会は57年6月25日(金)午後6時から築地スエヒロ大宴会場で、校歌斉唱によりにぎにぎしく開かれた。集うもの大学在学学生66名をふくめて二百八十余名の精鋭ぞろい!

宮沢会長、静岡の川村副会長、母校の小川教頭先生の心のこもった挨拶のあと議事に入る。

56年度事業報告・会計報告および57年度予算・行事計画が可決されたのち、同窓会規約第9条「副会長3名以内」を「6名以内」にという改訂が提案され、承認を得

た。ついで新しく副会長に推薦された59奥沢徹・60上杉重吉・67成岡英彦三名を代表して、奥沢氏が決意を披歴して拍手を浴びた。

懇親パーティの乾杯の音頭をとられたのは大正12年卒業の大先輩38石割正氏、「私を見做って健康で!」「仲間こそ財産、そして友情は宝!」との呼びかけに、全員岳南健児の意気を示そうと声高らかに「カンバイ」

例年通り静岡からの応援で黒はんべん、にえぎり、玉ねぎのフライなどの特産品や、スエヒロの名物料理をバクツキながら会場は正に和気あいあい、話がはずむ。

黒はんべんといえは、『週刊朝日』5月21日号の「自慢の郷土みやげ」に67山川静夫氏が「僕がいづもみやげと決めているのは、黒はんべんなのです。あのシッコロした歯ごたえと野趣に富んだ味が好きなんです。静岡のみやげはすぐお茶とみかんといわれるけれども、ぜひ黒はんべんもお薦めしたいですね。東京での静中・静高の同窓会では立食会でおでんの黒はんべんに、みんなが殺到するんですよ。静岡を離れた者には忘れられない味なんです……」と語った一文を読まれた方も多いことだろうと思う。

「たくまじき光もて 東海に昇る陽よ……」若々しい歌声が会場にひびく。今までで最高の参加をみた90年代の若人たちのまさに「希望の歌」である。

またたく間に予定の二時間が過ぎ、42井出多米夫・47杉山栄一両氏の指揮で高らかに校歌を歌い、42岩波信平氏の音頭で万歳三唱、総会の幕を閉じた。

ちなみに当日配布の『会報』13号は最多の24ページという盛りだくさん。会員すべての人の努力で関東同窓会のますますの発展を期していききたいものである。

(事業計画及決算書は表3に掲載)

### その後の同窓会活動

○六月二五日 五七年度総会  
(詳細は別掲の通り)

○七月二二日 幹事会

トッパムムーア会議室にて

出席者三六名、議事次の通り、

一、総会報告。奥野副会長より報告され承認された。(因みに総会

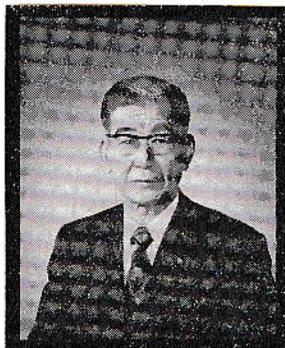
案内発送二四〇〇名―返事一六〇

〇名―出席予定三二〇名)

二、会報13号など発送依頼。

なお、七月七日の第十二回叩高会ゴルフコンペの報告などが行われ

# 堀副会長を悼む



堀副会長は、当会創立以来会の運営に尽力されると共に、諸会合にもよく出席されて、変らぬ温顔をもって後輩をご指導下さいましたが、八月二十七日逝去されました。まことに痛惜に堪えません。葬儀は九月九日千日谷会堂において合同酒精社葬によつて盛大に営まれ当会からも会長以下多数参列しました。

## すべてをやり尽した男

堀三君を悼む

白井 茂 (44回)

副会長堀三君は昨年春ごろから体調を崩していたが、八月二十

七日帝京大学病院で亡くなった。肝臓がんだった。

昭和四年四月旧姓関君と私は静岡高校の入学式で胸をふくらませていた。関君は柔道部、私は陸上競技部でガリ勉の友人には大分遅れていたが、どうか彼は理甲、

私は文乙にはいれた。高校でも彼はタタミの上で私はトラックで汗を流していたが、東大へも彼は農学部、私は経済にすべり込んだ。

しかし当時の農学部は駒場にあつたので、顔を合せる機会がなく、卒業後の徴兵検査で会い二人とも甲種合格、しょっぱいなと顔を見合せたのを今でも覚えてる。

関君は戦時中理化学研究所に通い、ここで合同酒精社長堀末吉氏に見込まれて堀姓となつたが、戦後岳父の末吉氏が参議院議員に当選、私は朝日の参議院担当だったので、奇縁をよく語り合つたものだ。

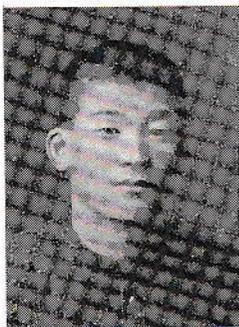
堀君は昭和四十三年から子会社サニーマイズの社長として敏腕を振るつたが、その数年前内臓の手術で拾つた血清肝炎がじわじわと彼の肝臓を蝕んでいた。近親者

の話によると堀君は自分の死期を知っていたらしく、毎月の会社の役員会には死の二週間前まで出席していたという。

九月九日千日谷会堂で行われた会社の合同葬儀では、白いボトスに囲まれた温和な彼の写真が「オレはすべてをやり尽したから心残りはないよ」と語りかけているようだった。心からご冥福を祈る。

## 堀君の思い出

村井 東助 (44回)



際立った特徴はなかったが大変真面目で温厚誠実な性格の持主であった。学業は勿論優秀、強健な体格で柔道は黒帯上段であつたと記憶している。彼は汽軍通であつたから帰りに一緒に道草を喰うような機会はなく学校以外での交りは殆どなかったがそれ以外で私には印象的な思い出が多い。いま旧いアルバムを取り出して

昭和四年クラス一同で梅原先生を中心に撮つた卒業記念の写真やお互いにサインして交換した写真などみると懐旧の情が蘇るのである。

彼は静岡理科に、私は北大予科に進路をとり勤務地も離れていたので久しく会う機会とてなかつたが、十数年振りに、今でも誠に不思議に思うのであるが静岡卒業以来の彼との再会があつた。

というのは終戦を前にした八月のある日、空襲警報で私の乗っていた列車は東北線小牛田駅の付近で待避、乗客は全部おろされたのである。そのとき、軍服に将校独特の長い軍刀を腰にした彼を見つけた。お互にはつととしたものである。彼は軍務で、私は地下工場建設のため北海道・東北に向う途中であつたのである。空襲下の奇遇

であつた。彼曰く「新型爆弾が島に投下された」 勿論私には初耳である。それから数日後、終戦の日を迎えたのである。

最近時々同窓会などのことで彼と会う機会があり、次の東京芙蓉会は何処でやろうか等楽しみに話しておられた。

今年のはじめ私の身辺整理で次のような一通の葉書を発見したので早速彼に届けたところ、彼も大変よるこんで呉れた。今思えば永い平凡な付き合いのうちの唯一の証しであつたかも知れない。

## 謹賀新年

五三回合同卒業生同窓会  
千日谷会堂  
一九九一年一月十六日  
村井東助 謹言

東京市丸森区石川町  
三麦研究研究所  
村井東助様



最後に彼に会つたのは六年中旬サニーマイズ本社の応接間であつた。いまは共に語る能わず淋しい限りである。ここに謹んで哀悼の意を捧げ冥福を祈りたい。謹しんでご冥福を祈ります。



## 各 期 便 り

## 四三回

今春四月三日静岡三笑亭で全国大会を開いた。その席でこれからは毎月集まろうということに決まり、第一回を五月二十日開いた。

毎月二十日の正午前後より三笑亭に集る昼食会なので、静岡へ行かれる節は二十日前後にされて、旧交を暖ためられたい。三笑会と名付けて、早くも六回開かれた。

(西沢純三)

我が町・我が住処

——身辺雑記——

嶋田富治雄(四三回)

私は現在西武池袋線の沿線東長崎に住んでいる。此処は昭和初期芸術家、特に画家が多数住んで芸術村を形成していた処で、今でも有名・無名の画家が数多居住している。又説教強盗が荒し廻ったのも有名であった。隣りの、起点池袋寄りの駅は椎名町で、戦後帝銀事件でその名を知られた。此処へ移転して来てから、早いもので既に半世紀近い歳月が流れた。それ以前は中央線の阿佐ヶ谷

球のグラウンドがあった。この辺は当時の調査では東京一空気の清浄な処とかで、私が引越して来た事由の一つも亦茲に在った。

不便な生活が何年か続いて世は戦争に突入していった。こんな不便な田舎であるから空襲の危険は少ないものと思っていた処、案に相違して爆撃を受けて仕舞ったのである。然も駅周辺の商店街でなく、駅から離れた畑の中の住宅の一角がやられたのである。附近には軍需施設その他これという目標がない。後で判ったことであるが敵機は都心を爆撃しての帰途、余った爆弾の始末に困って、所謂降り掛けの駄賃の意味で畑の中の住宅に落ちて行ったのであろう。爆撃を受けた家は災難であり、私の家はその一軒に属していた。爆弾は焼夷弾で、当時「モロトフの花籠」と称せられていた小型爆弾三十六個を一束にしたもので、それが空中で分解して、ばらばらに落ちて行くのであった。先づ近所の家に落ち、忽ち火を發し燃え始めた。

周囲は焼けて焼野原となった。その時一緒に落ちて来た「モロトフの花籠」の鉄の台は記念として保存してある。丁度重さが手頃なので、漬物の重しとして利用している。

戦争中高田馬場線経営の西武鉄道と合併し、武蔵野鉄道は解散して西武池袋線となっていた。西武鉄道は戦後池袋の発展を見越して沿線の開発に力を注ぎ、住民の増加を予想して駅舎の改築に着手し、我が東長崎駅も、線上駅舎として面目一新し、その時出入口が南北両側に出来、住民の要望は容れられ、懸案は一挙に、自然に解決した。便利になって住民は益々増えて来た。茲で皮肉なことは、商店街の様相が一変したことである。従来踏切り側にあった商店街は、出入口の新設に依って其処を通行する必要性が減少して寂れ、代って新出入口側に新設された商店街が繁盛して来た。人の流れの変更によって明暗を分ったのである。

にいた。中央線で便利なのは、当時高円寺・阿佐ヶ谷辺り迄で、その先狭窪に行くこと、ずっと不便で田舎であった。それが、その狭窪よりも、もっと田舎の私鉄沿線に引越して来たのであるから、日常生活の不便さは相当なものであった。従来は中央線一本で都心に出られたのが、今度は私鉄終点池袋で省電に換えなければならぬ。当時の池袋は、今の東京で乗降客一、二を競うターミナルの中心駅とは異って、山の手線の沿線の駅に過ぎず、当時の市電すら開通していなかった。

電車は武蔵野鉄道と称し、大部分は一輛運転で、偶には二輛編成が畑の中を突っ切って飯能迄通じていた。この電車は元は肥料を運搬する為に設置された鉄道で、それが、沿線に人が少し住む様になつてから人間運搬に切り換えたところから人間運搬に切り換えたところから、経営は赤字で、当時某信託銀行の管理下に在り、車輛はオンボロで運転休止が多く、頗る頼りにならない電車であった。

私の家には三発落ちたが、二発が庭に、一発が屋根を貫いて、二階から一階に落ち燃え始めた。幸い後続の爆撃がなかったので、何とか消し止め危く全焼を免れた。

この町のシンボルであった立教大学の野球のグラウンドは、戦後周囲の畑が住宅地化されたことに伴って邪魔になり、又大学もグラウンドの狭隘を感じて遠方に移転し、跡地七千坪には、一時東急のマン

が繁盛して来た。人の流れの変更によって明暗を分ったのである。元の駅舎跡地には電車と同系統のスーパー西友が店開きし、程なく反対側に開店した東急系のスーパー東急と錦を削っている。此処でも、箱根戦争以来の西武・東急(五島・堤)の宿命の対立を見るようである。

この町のシンボルであった立教大学の野球のグラウンドは、戦後周囲の畑が住宅地化されたことに伴って邪魔になり、又大学もグラウンドの狭隘を感じて遠方に移転し、跡地七千坪には、一時東急のマン

が繁盛して来た。人の流れの変更によって明暗を分ったのである。元の駅舎跡地には電車と同系統のスーパー西友が店開きし、程なく反対側に開店した東急系のスーパー東急と錦を削っている。此処でも、箱根戦争以来の西武・東急(五島・堤)の宿命の対立を見るようである。

この町のシンボルであった立教大学の野球のグラウンドは、戦後周囲の畑が住宅地化されたことに伴って邪魔になり、又大学もグラウンドの狭隘を感じて遠方に移転し、跡地七千坪には、一時東急のマン

ションが建設されると噂されていたが、大学当局が、切り売りはしない方針の宣明に依って立消えとなり、結局東京都が購入して、市ヶ谷から都立牛込商業高校が移転して来て着落した。この高校は牛込にあったので、地名の牛込を名乗っていたので、長崎に移転して来た以上、名称を変更してもよきようなものであるが、依然牛込を名乗っているのが、町名と合致せず、事情を知らない第三者には奇異の感を抱かせ、違和感を与えている。附近には中学校・小学校が在り、文教地区を形成しているの、建物も三階建以上は許されず(二階止り)又工場の新設も禁止で、閑静なのが取り得である。

私が移転して来た当時は、町の商店街へ行く道の両側は一面の畑で、春には蝶が舞い、雲雀が囀り初夏には蛙の鳴声が聞えて来ていたのであるが、今は住宅地化して昔の牧歌的な面影は一つもない。近所の桜の名所であったり千川堤も、戦後千川通りの交通量の増大で道路が狭隘となったので埋め立てられて暗渠となり、道路が拡張し、同時に見事であった桜並木も切り倒されて名所が一つ消えていった。

私の家の近所も、戦前の儘の家

は僅かとなって、大きな家が売られると、後には細かく仕切った建売住宅かアパートが建つ。この中で昔の儘の姿を強風に維持しているのは、我家と向う側の家の二軒のみとなった。共にオンボロで既に寿命は来ている。共に老人夫婦である。私は年令既に従心之年を脱した。余命も知れたものである。今更他へ移る気もない。新しい酒は新しい革囊に、古い酒は古い革囊に盛るのがふさわしい。私と同年代の向う側の住人も、私と同じ考えを抱いているのか一向に手を付ける様子が見えない。人生の半以上を、然かも最も活動的な時代を住みついた家には、又町には、それなりに思い出があり、愛着がある。

長崎の町は、五十年前と表面的には変っている。確かに、町のシンボルであった立大の野球のグラウンド、桜の名所千川堤も無くなった。然し住んでいる人の気持は一向に変わっていない。此処に五十年近く住みついている私にはそう感じられる。

居を定めて約五十年、仮りの住居が終の栖かとなった。俳人一茶ではないが、

これがまあ終の栖か柿一本

五三回

五三回の諸兄、その後如何ですか。六月の総会には大石、奥野、小野、三枝、桜井、園田、徳永、橋本、益田、松前、山菅、月見里の十二名が出席し、久し振りの顔合せで楽しい一時でした。同級会をやるとういうことでしたが、年内に出来なかつたので、来春には是非実行しようではありませんか。

石上君の奥さんからお便りがあって、同君はその後大分快方に向つており、十月末、日本医大病院を退院し、清水に帰って療養する事になった由。

長い入院生活も大変だつたらうし、今後も仲々大変な事だらうと思われる。見舞に行く事が難しいとすればせめて手紙等激励してやりたいものです。

新住所 清水市新富町十一番五号 (月見里得知郎)

五四回

山口道也君は一昨年十月頃より頭痛と右足がツル発作に襲われ、その症状が次第に頻繁になったため、慈恵医大で診察の結果、脳圧異常による右の耳奥の聴神経腫瘍と診断されたが、その腫瘍が小脳

を圧迫し、生命にも危険があるとのことで、作年五月、手術によつて腫瘍を摘出してことなきを得たが、その際、顔面神経を損傷し、顔面神経麻痺を起こしたので、六月以降ハリ治療を続けているが、経過良好との由。

住金物産常務の職も退かれて、非常勤の顧問になられたので、現在は自宅で晴耕雨読、悠々自適の生活を送られている。

(庵原梯次)

五五回

住めば都というけれど「長沢さん、どこにお住みですか」

「大宮に住んで居ります。東京の北約三〇キロメートル、通勤には一時間半かかりますよ」

「ええ、大宮はよく存じて居ります。東北新幹線の出発点ですな」

先日、あるパーティでの在日外国人との会話の一節である。

大宮も、東北・上越新幹線の開通で最近にはぎにぎしく言の端にのぼるようになった。およそ、この町には不釣合とまで見える大きなステーション、駅前の再開発、東北の玄関口としてではあるが、以前の宿場的な様相は一変しつつある。

さて、私がこの大宮に住み付いたのは、昭和二十四年の春にさかのぼる。何んぞまた、大宮なんぞの田舎に居をかまえたときよく人に聞かれるが、戦後の住宅難の時代、往々、勤務先の商工省(通商産業省)から役所の家族寮が大宮にあるが入れないかという話があり、これに飛びついたのが、今まで足も踏み入れることもなかつた大宮に、居をかまえるきつかけとなつた次第である。

私も近く遷居を迎えることとなるが、すでに人生の過半をすぎる三三年をこの地大宮に過したことになる。

静中・静高の同窓の諸兄も、東京より北に住んで居られる方はごく少い。私も当初は、東京よりも静岡に近い湘南にでも住みたいという願望があつたが、人生というものは、ふとしたきっかけで方向が決つて行くものだ。

私共の住いのご近所は、大部分が平均的なサラリーマン家族で、似通つた生活振りであり、世帯主もそろそろ次の世代の若い人達に代りつつある。

新しい住宅地のせいで、田舎のような連帯意識はないが、またそれなりに余計なしがらみも少く、

まあまああのコミュニティである。私共が大宮に住んでいるためではないが、子供達二人も、勤務先の会社の関係で群馬県の高崎と安中にそれぞれ所帯を持っており、私共一家にとって、東京の北部が勢力圏ということになっている。

更に便利な土地に移り住むことも、今まで考えないわけではなかったが、経済的な事由もさることながら、何かおっくうで、ついつい大宮の地にしっかり根を下した生活振りとなってしまった。

さて、私自身、いわゆる愛郷精神のような強い意識は持っていないが小学校、中学校、高等学校と生れてから二〇才までの若い時代をすごした清水、静岡の山川は、やはり私の郷里として私の身体から抜け難い「なにか」があるようだ。

およそ不可能な事に近いのだが老後は静岡に住めたらなあという思いがふと脳裏をかすめることもある。人にも多少の差はある、鮭にある回帰本能に近い動物的な郷里指向が潜在しているのかも知れない。(長沢栄一)

## 五六回

早いもので、母校を卒業、もう四十余年になりました。去る五四

年、定年に達したのをしおに、在職企業の協力をもとに、かねて考えていた、省力装置関係の設計製作にふみ切り、何んとなく世の中に受入れられる格好が付き、細々と何とか過して行く事ができそう

な気がしてきました。思えば三十数年と言ふもの、東京に仮寓がありながら、全国をまたにかけて飛び歩かなければならない生活で、母校の同窓会にさえも、一度静岡で五六期の同期会が催された際、東京から出向いて出席させて頂いた位のもので、全く御無沙汰の積み重ねでした。丁度二年程前、同期の成田君からおさそいがあり、静岡中関東同窓会に出席した処、懐しいメンバー各位にお目に掛り、更にそのメンバーの一部の方の御骨折りにより、五六期東京近郊在住の有志の会に出席する事が出来ました。その会では、夫々異った分野でのエキスパートの、その年輪を窺わせるエピソードの数々や私にとって予想だに出来もしない視点からの考え方、総括、更に耐えに耐えた試練の洗礼を経てかちとったと思はれる燻し銀の様な人柄等々、楽しい一夕を過す事が出来ました。ほぼ年に一回このつど

いが有志の方の御尽力によりもよおされ、この拙文が御手元に届く

頃には今年度の会合が、銀座日航ホテルで内々に楽しく打上げになつてゐる筈です。

さて私事に互つて誠に申し訳ありませんが、何分幹事方向？からの圧力によって、一五〇〇字を何とか辻褃を合せる責任なるものがありそう、蛇足、或いは、竜頭なしの蛇尾を少々つけ加えさせて戴きます。私こと四月三日生れでありながら、早生れとして親が届け

たばかりに、仮空の三月三十一日生れとして、常に同期のクラスでは一番「ミル」く、同期諸兄の御指導・御鞭撻を賜る明け暮れでした。かかるに加え、相当重症な精神分裂症的傾向があり、例えば一年早々に蒲原生れのジャバ蒲こと中西君に、地球と同等の成分を同じ%でドロドロにとかし大砲に

つめて宇宙に打ち上げたならば、地球を廻わる、ミニ地球みたいなものが出来るのではないかと、卓説？をヒローした事によって、おまえは誇大妄想狂であると言う「芳名」を頂戴し、又地理のヌマカンこと沼館先生に対し北極の水はしょっぱいでしょか？と言う

とんでもない質問をして、下らん事を聞くな、と叱られた事などから、八方破れ性の御迷惑を同期の方に掛けっぱなしで、とうとう五

年間を通し「精神(病)はなし筆者(註)」で通しました。然し幸か不幸かこの八方破れの生活態度が発想につながつたのか、当り前の技術屋なら「絶対考えてはいけない」手法でちょっとした装置をつくったところ、逆にまちがってまかり通ってしまった趣が出てきて、本人が面喰つて居ります。

沢先生、家永先生の、いわゆる逆も又真なりが五八才にして身につまされとは？昔は「四十にして惑わず」と言はれていました

が、もうすぐ赤いチャンチャンコを目の前にして、一日に何十回もまよっています。創立一〇〇周年をすでに経過し、私より先輩が四十教期おられる筈で、どうぞ先輩諸兄、迷える小羊に御教導を賜らん事を、今後いかに生きるべきか？を、私としては絶体を実現する筈のない夢として、①三十年に

互る通動生活を総括して、通動考現学なるテーマの雑学ないし、ノンフィクション分野での研究、②南大洋の環礁でロビンソンクルーソーなりの生活③三〇坪の家庭菜園から飛躍して複合農業(エスカルゴ海釣のエサの獲しよくを含む)への転進、④何ら見かえりの傾斜、等々を考えたと思つ

ています。どうも時間が足りないようです。どうぞ時間が足りないようですね。(杉原泰二)

## 五七回

私ども五十七期生は昭和十七年に卒業し、今年はそのから数えて四十年目にあたる。そこで毎年の期全体のクラス会も少しばかり大がかりになり、熱海の旅館で一泊しての会となった。

還暦を二年後に控えて、最近、次の一文が目についた。VOIC E十一月号の諸井薫氏の文章である。「男五十代の実感は、人生八

合目に辿りついたという思いである。まだ歩みを続けなければならぬ道がいくばくか残つてはいるが、これから先に何があるかはたしい見当がついている。衰えるばかりの先を思うよりは、足を止めて眼下に一望できる来し方を眺め、感慨を新たにすることの方が多くなる」と。

なかなかいいところをついているように思う。しかし平均年齢も大いに伸びた今日である。真実一路、これまで懸けてきたこの一筋に、さらに懸けていきたい。

## 五九回

(影島利邦) 第五十九期同期生会に出席して

十月二日(土)は、この秋何度目かの台風襲来で朝から烈しい雨だった。しかし、新幹線から降り立った静岡駅は、改装成って明るく広々として、気のせいもかたくなを待つ間の雨の音も心なごむ思いであった。このところ同期生会は一年置きに開かれているが、今年には新通り一丁目の「あなごや」の大宴会場で午後五時から盛大に行われた。

昭和十四年四月に初めて静中の門をくぐって早や四十二年、当時言われた人生五十年の峠も越してみれば左程でもなかったかのよう、この日集った元美青年は、皆元氣潑潑、顔を見るなり昔の俺、お前にかえて話に花が咲いた。六十一名の出席予定者が略揃ったところで、原 暉君の司会で会は進行した。最初に五十九期の同窓会世話人代表である高野洋君が挨拶。最近は六十五才以上を若人という、我々はまだ十年若い、元氣でやろうというような挨拶だった。医者としての学識経験がにじみ出るような話。次いで、会計担当の大橋啓一君から会計報告があり、更に、静校野球部後援会長の河瀬卓二君からこの夏の甲子園で一回戦に池田高校(今大会の優勝校)と当たった不運の一戦について

報告、同窓会諸兄姉の多額の寄付に比べられなかったことの釈明があり、いづれも拍手。

御來賓は、恩師の三上先生と北川先生、それに現野球部長の小山先生。まず三上先生は、先程の高野君の説に異論ありとして、自分は七十五才になるがまだ老人とは思わない、早起き、速歩き散歩、原書を読むのが体と頭の老化防止の秘訣だとのこと。確かに弁説は相変らずなめらかで背すじもピンとしてお元氣そうだった。北川先生は勿論お元氣で、戦争体験者の立場からいうと最近の教科書問題の処理の仕方には不満であるというようなお話をされた。小山先生のお話が終る頃には寔いよいよ暗となり、賑やかこの上なし。大声と共に松永貞一君が立上った。来春二期目の県議選があるので宜しくお願ひしますと、すっかり板についた口調で挨拶。次いで久し振りに東市から顔を見せた福原元一君(通産省立地公害局長)の挨拶。竹島一夫君(小鹿で歯科医開業)が和服にお色直しをして得意のものを聞かせてくれた。東京方面からの出席者は、そのほかに内田武夫、栗田源吉、三輪潔、湯本幸丸の諸兄、それに小生であった。あちらこちらに車座ができ、適

宜マイクで叫ぶ者ありで、楽しい雰囲気はいよいよ高まったが、時計の針も遠慮なく進んでアッという間に八時を過ぎてしまった。司会者より、明後年は卒業四十周年に当るので一層盛大にやろう、また三十周年のときと同様にお互いの写真を交換してアルバムを作るうとの提案があり、全員拍手で賛成。懐かしい静中の校歌をきちんと四番まで合唱。最後に、次の再会を約して万才三唱し、尽きぬ名残りを惜しみつつあなごやを後にした。雨は上がり雲の切れ間には一つ、二つと星がきらめいていた。(清水汪)

六四・五回

今年の七夕は雨で明けた。同期の友と牽牛、織女の如く一年には一回の会合が出来ないかと心配したが、新宿、「今佐」では例年よりも多く実に三五名も出席して、料理の置く場所もない位だった。まず、世話人の名波倉四郎君の挨拶で始まり、次いで杉本哲君より物故された中川敏男君(日立電子)の想い出を語られ一同冥福を祈った。はるばる静岡より秋山義明君、近藤昭蔵君、河村勉君、藤田栄君、山下啓也君、渡辺靖君が上京さ

れ、唐紅に白の校章を染め抜いた64期応援旗を贈呈された。かつて静岡商業のエース大原規男君(読売新聞)も特別会員として

を温め又来年七夕会を約した。十月十日伊豆大仁カンントリー倶楽部にて第二回64期ゴルフ大会を66期安田正弥氏の御助力で開催し



て昨年に引続き参加され、ライブた。昨年より多く十一名の球友がル佐々木投手と感激の握手を交した。静岡を離れて三十三年ぶりの集い、各々日頃の腕を奮ってベントを目指したが、勝利の女神は浅井幹夫君に輝き、永田進一君、

井上公司君と続いた。ベスプロは渡辺宏一君、今夏冒の手術をし乍らニヤピンを取った神谷武男君、安定したショットの村上喜代二君塚本光彦君、山本光男君、日頃に似合はず岩本吉雄君、野沢が沢山芝刈りをし、楽しい一日をすごした。

### 江の島会

—— 毎年九月の第一日曜  
江の島恵比寿屋で ——

#### ①今年度総会

神奈川支部「江の島会」が去る九月五日正午から開かれた。心配された台風十五号も幸にして北東に逸れて快晴、気温も急に下がり江の島の海も穏やかであった。参加者47名、母校から渡辺校長、本部から川村副会長、望月事務局代表、鈴木前事務局局長、関東同窓会から奥野副会長が見えられた。35期和田氏は昨年同様夫人を同伴された事や、46期大藤氏が歩行不自由なのを押してわざわざ伊豆高原から参加されたりその他富士市、越ヶ谷市、船橋市等から馳せ参じられた会員も有った事は感激に堪えなかつたし、同時に「江の島会」を益々発展させなければならぬという感を強うした。今年は何願も

人は己の後姿の配慮が行き届かない。その背中、時としてあやなす醜さを、何の気兼ねもなく一寸声をかけて矯正し合える、そんな仲間の会合を数多く持ちたいと五十を二つ過ぎて考える今日この頃である。

(野沢正憲)

多かつたので、村松会長(42期)から、冒頭のあいさつの中で、特に会の由来と特色について説明があった。

#### ②創立35年——つづす訳には行かない——

たまたま35年前35期永野清42期村松直の両名が知り合つて話が郷里の事に及び、「湘南地方にも静岡中学の出身者が居るようだ。一つ集まって懐旧談を交し、懇親の情を深めようではないか」というのが事のはじまりである。当初は数名、現在は七百数十名の会員を擁している。初代会長は27期の李家孝氏だが、会の体裁も漸く整つて来た昭和27年の春の事である。さて今から7年前母校同窓会の広域支部結成の動きの一つとして東京を中心とした関東同窓会が誕生したので、神奈川県全域に亘る「江の島会」もこれを解散してその傘下に入ったかどうかと提案し

たところ、42期柳川太郎氏(現関東同窓会副会長)をはじめ全員が解散猛反対、長い歴史と伝統を有する特異の存在として存続すべきであるとのことで、独自の発展を続けて来たのである。

所が四年前、突然の事であるが関東同窓会を通じて母校同窓会本部から交付金が届いた。要するに神奈川支部として認められたのである。別にこちらから要請したのでもなかつたが、永年の実績と急増する会員とその将来性に対し、関東同窓会傘下にあるものの同窓会による一友好団体の「江の島会」が支部として公認された事は天の配慮として有難く受け止めるばかりでなく、永久にこれをつづす訳には行かないと決意・意気込みは強まるばかりである。そこで早速本部規約に則り、今迄なかつた規約を支部としてはじめて作り、35期永野清氏が「江の島会」としての第2代会長に就任、昨年九月42期村松直会長に第3代目を托して今日に至っている。

③こんな点が特色のポイント  
・規約にも明示しているが、神奈川県に在住・在勤している者だけでなく、会の主旨に賛同する者はすべて会員であつて平等である。  
・会の主旨は発足当初より一貫し

て懇親の情を深め、「岳南健児」の名と誇りの下にお互に健康と活躍を誓い合い、母校の名誉と発展に寄与する事が主眼である。  
・従つて総会は徹頭徹尾「明るく楽しく」をモットーとし、和して乱れず、いやしくも酒乱の如きは除外としている。

・年会費は不要である。  
・総会の期日・場所は標記の通り  
・校歌は4番迄歌い、ばんざいで一応閉会にするが、日没点灯後止むなく解散、ただしその後江の島「弁天橋」上の屋台のオデン屋に於ける余勢の静まる頃をもって実質上の閉会としている。

④本年度出席者芳名(敬称略)  
・今年を経費の関係上省略したが往復はがきによる総会出席申込の会員に対しては当日を楽しみにお待ち申し上げる旨の礼状が届く。  
渡辺悦郎校長、畔柳安雄、永野清和田頭太郎夫妻(以上35期) 平尾鋼之輔(37) 石到正(38) 野崎操一(40) 井出多米夫、宮崎忠輝、村上禎威、村松直(42) 今井志郎西沢純三(43) 大藤道直、川村春雄(46) 片山正二(47) 奥野孝、園田芳男、月見里得知郎、鈴木敏夫、桜井昌也(53) 相川富士雄(55) 内田武男、奥沢徹、勝呂清(59) 黒田秀幸、成岡英彦(67)

関口登(68) 見城亮、神谷貞子、松島玲子、林久美雄(69) 吉田修(70) 石井禄朗、後藤弘枝(71) 谷口諱次、山口公子、鈴木基弘(72) 白木桃子、滝井弘子、望月昭彦(78) 高山貞和(81) 近藤猛(84) 鈴木雄介(85) 上杉雅之(87) 望月光の諸氏である。

⑤来年度総会の予告  
昭和五十八年九月四日(第一日曜) 謹んでお待ち申し上げます。  
(六)お礼  
沢山の方々からご芳志を賜わり感謝に堪えない。中でも関東同窓会長宮沢次郎氏からは、会の運営を円滑かつ効果あらしめる為にこの特別のご配慮から、昨年に引き続き特別々梓の多額のご芳志をいただき恐縮の至りである。紙上をお借りして、以上の方々に対して中心よりご厚礼申し上げます。(昭和五七・九・五)

### 計報

謹しんでご冥福をお祈り致します  
勝俣 英(20) 宗 武彦(27)  
石黒 精一(28) 幡鎌 俊次(28)  
藤本 赳(34) 坂東 環城(37)  
北川権二郎(40) 松田 堅三(41)  
梅島 正雄(44) 吉川 善吉(56)  
桜井 契男(68)

# 謎解きの随想

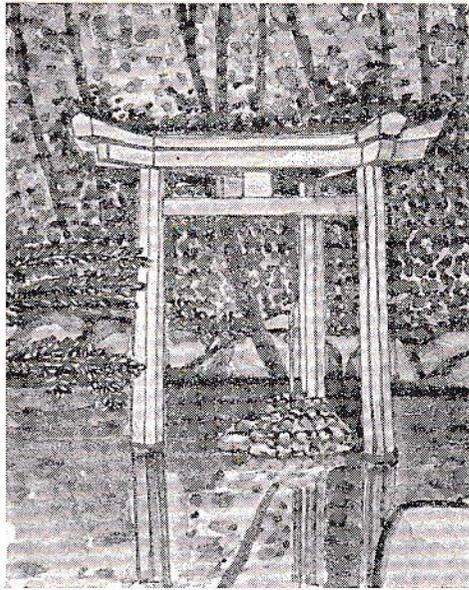
40回野崎操一氏の著書「心の軌跡」から

編集委員 月見里 得知郎

## 三柱鳥居とダビデの楯

三本足の三角鳥居が京都にある。広隆寺の東六〇〇メートル、右京区太森ヶ東町、通称蚕の社、正しくは木嶋坐天照御魂神社の境内に三柱鳥居がある。

奈良本辰也・高野登共著『京都の謎』に「秦氏が作った珍しい造型の三角鳥居は日本人を困惑させる」と記している。司馬遼太郎の短編小説『兜率天の巡礼』には、



景教伝説に基づいて、「聖徳太子

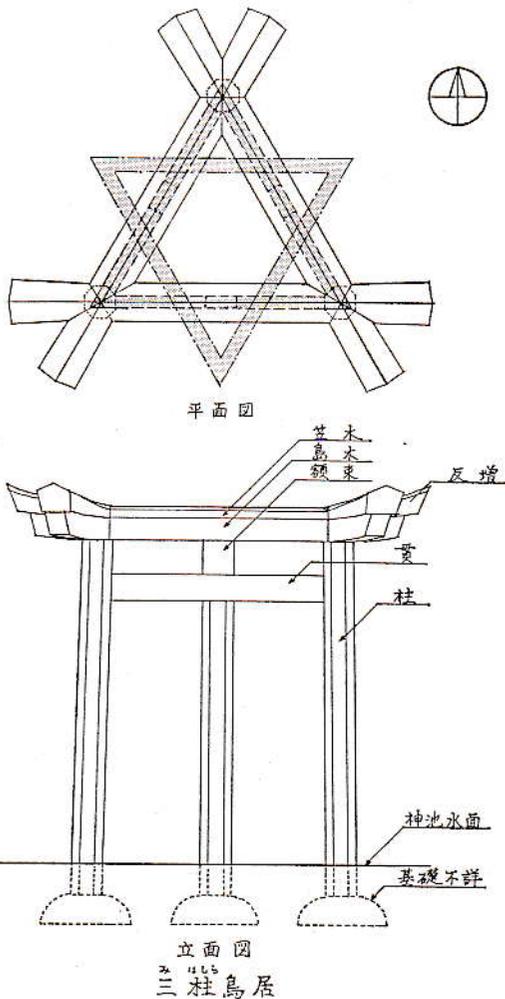
が怨霊鎮魂のために仏教を始めキリスト教、景教を利用したのではないかと考えられる」と論じ、「木嶋神社に妙なものがあつた」とこの鳥居に言及している。

木嶋神社の由緒書によれば「三柱鳥居は全国唯一の鳥居である。上段神池にあり、鳥居を三つ組み合わせた形体である。中央の石組は本殿ご祭神の神座であり、宇宙の中心を表わし四方より拝すことが出来るよう建立されている。創立年月は不詳であるが、現存の鳥居は享保年間（一七一六—一七三六）に修復されたもの。一説には、景教（キリストの一派ネスト

リウスの東漸と共に中国に及んで渡来民族秦氏と関連あり）の名残を留める遺跡とも伝える。所謂三常の門即ち身体・言語・思想の清浄虚白、或は希望・信仰・愛の三門とも伝えらる」とあるが、三角形の謎は判然としない。

そもそも鳥居は山、岩、木、御陵、神社などの礼拝の場、神域入口の標識として建てられる純日本的宗教施設で、形態的に分類すると、黒木、神明、鹿島、八幡、明神、春日、稲荷、山王、両部、三輪、住吉など少しずつ異なっているが、三角の鳥居はどの形式にも層さない。三柱鳥居には笠木、鳥

木、反増、額東があり、貫が柱から突き出ていない点から見ると明神鳥居に近い。構造は石造で、柱間は約三メートル、水面上の高さ約四メートルの規模、柱は普通円形であるのに八角形。新羅の古都慶州の石窟内の石柱や將軍墓の四隅の石柱は八角形であるから、新羅系に関連が見られる。鳥居は神祇信仰に附随するが、仏教、儒教、道教、キリスト教には用いられないから、渡来の呪術、魔除を神道的な外観に装わしたのではない。物の形で、○は太陽を表わして陽可、吉、△は星を表わして陰不可、凶である。古来、三角は占



立面図  
三柱鳥居



モロッコの国旗



イスラエルの国旗



ソロモンの印章



三柱鳥居



ダビデの楯

いや呪いに用いられた。続古今集の小侍従の歌、「思ひあまり三角柏に問ふことの沈むに浮くは涙なりけり」。或は三足の鉄輪を逆さに頂き燧燭の焰を立てた丑刻詣。装束の三角文様を鱗箔と称し、能では悪霊鬼神に着用する。また死人を表現するのに白い三角を額につけた。このように不吉な三角を神聖な鳥居に採用することは、日本人の感覚では考えられない。

三角鳥居は五芒の星☆の変形だろうか。五芒の星はイスラエル三代の王ソロモンの印章でペンタグラムの。中世魔除と信ぜられ、ゲートのファウストに見える。現在でもモロッコの国旗や各国軍隊の徽章に用いられ、科学万能のアメリカ国防総省ペンタゴンは巨大な魔除の星形をした建築である。わが国では京都の清明神社の軒瓦、御神灯や幡の星形の紋に残っており

徳川幕府がオランダの築城法に従って造った五稜郭の星形の城、ドイツの軍備を直輸入した旧陸軍の星の徽章も実は魔除即ち弾除であった。しかし三柱鳥居は二等辺三角形ではなく正三角形であるからペンタグラマとは関係がない。

正三角形を逆にして重ねると籠目が出る。籠目は魔除になるといわれるので、節分に籠目笹と稔の小枝を竿の先に結わえつけ、家屋の高い所に立てて鬼を追い払う風習があった。この籠目を国旗に取り入れている国はイスラエルで、白地の真ん中に青色の六芒の紋章カゴメがついている。

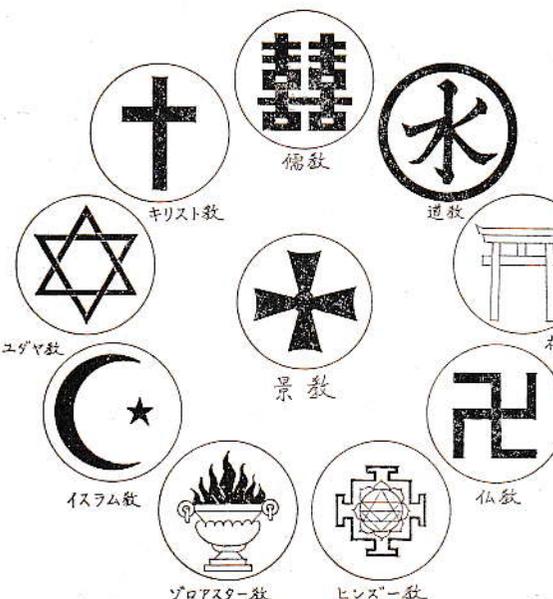
なぜ丸い池の中に立っているのだらうか。道教では水は生命の根源として、シンボルマークは丸は水の字を画くから、丸池と浄水は道教を表わしている。道教の教義は宇宙の根源を道といい、道は無であるが無から一が生じ、それが三元、三氣、三才と変じて万物が創造されたという。三柱鳥居の中心には、池底から碎石を盛り上げてピラミッド形に塚を築き御幣が挿してある以外には、神体も仏像も十字架も、現世利益もなければ悟入の禅味もない。在るのは上空に突き抜けている逆三角錐の空間のみである。三本の柱の意味の説

明はつくが、正三角形の解明は十分でない。

日本にも伝来した景教は、キリスト教のネストリウス派の唐の太宗の貞観九年(六三五)ベルシヤ人アラホンによって長安にもたらされ、玄宗の天宝四年(七四五)タイシリアの宗教である故に、波斯寺を大秦寺と改称された。長安の義寧坊に埋没していた大秦景流行中国碑の発掘によって景教が一時流行したことが立証された。

景教の本宗であるキリスト教の発生地イスラエルは、紀元前九三二年から七二二年まで隆盛を極

め、古都イエリサレムはダビデが城を築いた処である。ダビデは古代イスラエル二代の王で、羊飼から身を起し、戦闘には、革袋に入れた石を右投げ具で敵將の眉間に打当てて連勝し、遂に推されて王位についた。これは神ヤハウェが楯となって守護し給うたお蔭と信じた。ダビデは無防備で勇敢に戦う反面、純真な心を持ち神を信仰する謙虚な人物であった。この故事がイスラエルの国旗に選ばれた理由であろう。ダビデの守護神のマークはダビデの楯またはダビデの星ともいわれ、国家の安全と国



宗教のシンボルマーク

民の加護を象徴する。ダビデの楯は旧約聖書サムエル記の中で、ダビデがヤハウエに捧げた感謝の歌の中に見える。ガリラヤ湖岸のユダヤ教会堂遺跡のレリーフや、エチオピア・ラリベラ・ベータマリヤム聖堂の装飾文様に残っており、現在でもアメリカ陸軍ユダヤ人牧師や警部の徽章に用いられている。

丸池に水は道教のシンボル、八角の石柱は新羅の系統、正三角形はダビデの楯、鳥居は神道、三角鳥居の構築は技術、空間は宇宙思想。これら諸元を総合し得る人が造ったことになる。かく見えてくると、三本足の三角形の三柱鳥居は秦河勝が、ダビデの楯の形を秘めて建立したものと考えざるを得ない。秦氏の氏寺広隆寺には聖徳太子が河勝に賜った弥勒菩薩半跏思惟像と共に、秦河勝夫妻像が保存されていることから、河勝は氏族の代表的人物である。河勝は桂川の灌漑土木、機織、養蚕、酒造など産業技術の面で幅広く文化の開発に貢献した。一方、精神文化においても儒教、仏教は勿論、道教、景教に関しても多大の教養を持っていたものと思われる。河勝は科学技術をもって産業革命を計ってくれたが、当時の経済基盤は

未だ成熟しておらず、優遇を受けなかった。自然科学に対する造詣が深かったが故に、偶像崇拜や多神教は信仰の対象とせず、ひたすら宇宙の神秘に敬虔であったことと、渡来民族への神の庇護を願うたに相違ない。

三角鳥居の前に立つと、日本民族は一つのミステイクをしたように思う。それは三角である。三角を占術呪術的に捉えて軽視して来た。現代の血液の中にもそれが泌み込んでいて、三角を忌み嫌い三角鳥居を見れば奇妙に感じ、無気味な存在とのみ映るのである。これでは文明は生れる訳がなかった。然るに、ユーフラテスからナイル、地中海沿岸にわたる西欧民族は、三角の中に法則を発見して三角法を確立し、そこから平面三角法、立体三角法、三角函数へ展開し、さらに三角測量によって地図を作成して航海に乗り出した。また天体観測から暦へ、黄金分割による建築美術、三角形の強固なトラス構造へと、一つの三角から多方面の文明の花を開かせた。三角にも宇宙の真理が秘められていたのであるから、ダビデの楯の形に造った三柱鳥居に信仰を託していたであろう秦河勝から謙虚に科学を学ぶべきであった。

「え」

29 鈴木 鋭児  
静中の卒業者名簿を紛失しましたので、回期欄はそのままにしましたことをお赦し願います。

39 仲田 正午  
昭和五十七年会費をお送りします。

41 高木 三吉  
名簿訂正の通り住居表示が変更になりましたから、宜しくお願い致します。

43 坪 晴行  
いつも御無沙汰しています。元氣です。目下、ハビィ・リタイアとして週二回病院の診療、その他医療請求書の診査事務など。本年から日本「ボイスカウト」の茨城県理事長をつとめています。尚「ロータリー」でも活躍しています。祈健康、お目にかかり度し。

43 望月 孟夫  
この所心臓の具合も大分よくなり何とか無事に過して居ります。

44 望月嘉太郎  
TVの夏の甲子園決定を覗いた私の眼に写った校章に思い起こ

した私が静中三年生の折の優勝。時の投手だった級友の上野君には私が国鉄マン、彼が慶応ボーイだった或る日品川駅で声を交して以来既に五十年を越えました。皆古稀を過ぎた44期生の健勝を!

45 大石 清  
東京在住者で麻雀会をやって頂くと嬉しいですね。ゴルフは疲れる方が多いので、余りやりません。郵便等はかなり熱心に続けています。どなたか挑戦して来ませんか。

47 鍋田 康  
既に立秋も過ぎ、今年の夏の短かかりしを嘆き、せめて残暑の長からむ事を願います。古稀ともなると身体も調子も狂い、目下入院療養中のため会費送金遅くなっています。

45 石上 稔  
会報懐しく拝見しました。幹事の方々の御骨折りに難く御礼申し上げます。

48 河村 祥  
名簿訂正のように勤務先が変更しました。

45 田代 正  
同窓会の運営・事務お世話様です。今後よろしくお願い致します。

45 須山 達夫  
八月二日から十二日まで英国ケンブリッジで四年に一回開催の国際鳥類保護会議に出席して十四日帰国し、会議中のアジア大陸部会の会合のリポートを作成して、大陸部会所属の各国内支部に送らねばならないので、ワイドプロセッサード、これを作成中です。

47 大村 三郎  
静高甲子園出場を期待しております。

48 岩崎 鑑一  
名もなくて秋風に想う五十年「一行でも」という言葉に一句しるしました。

48 太田 正元  
会費納入おかれて申訳ありません。

48 太田 正元  
会費納入おかれて申訳ありません。

48 太田 正元  
会費納入おかれて申訳ありません。

中々会合には出席出来ず、来年あたり暇になりましたら出席させていただきます。

50 江川 友治

ことしも甲子園大会の夏が来ました。この時期、忘れられない人は鈴木勇(旧姓濁沢)君のことで。またそのうち彼をしのぶ集まりでも開きましょう。

50 大塚 武

小生の名簿に転居先不明となっていますが左記の通りですからよろしく願います。

電話 〇一一六四三三七三六三

なお勤務の方は北洋相互銀行取締役会長(六月まで社長)ですからこの方も適宜御訂正下さい。

電話 〇一一二六一一三一一

51 田中 賢一

49期から52期までがお世話になった配属将校佐藤正鶴殿が大田区田園調布一―三八―一六に御健在九五歳の御高齢なるも御元気。

51 佐伯 正剛

野球部の甲子園出場、今回は実に残念でした。又の健斗を祈ります。

防衛庁から民間に転出して十五年になります、何かと難しいことが多く益々勉強の必要を感じております。

皆様の御自愛をお祈りします。

なお五七年度会費をお送りします。

53 望月 昂

平素は御無沙汰で恐縮です。お世話役いつも御苦勞さまです。

今年はじめより左記のように勤先がかわりました。よろしく。

市川市大町二七一

市川市立大町診療所

(電) 〇四七三・三七・三三一

5) 51 安東 哲夫

幹事の皆様のご骨折りを深謝致します。先般は会誌に投稿の機会を与えられありがとうございます。早速磯野君より友情あふれる便りをいただき心温る思いをかみしめました。

語らざることまだ多し敗戦忌ランパンに果てんと決めし炎夏来ぬ

54 大藤 直久

同窓会の運営ご苦勞様です。毎年少用があったりして出席できませんが、その内ゆくり出席できるようになると思います。その節は宜しく。

54 佐野 圭司

昨年東大を定年退官して東大名誉教授となりました。ひきつづき帝京大学医学部脳神経外科教授としてはたらいっています。病院は板橋区にあります。

54 篠原 範平

げんきにやっております。いつもお世話様です。今後ともよろしくお願い申し上げます。

56 伊東 卓爾

母校の甲子園出場おめでとうございました。よく斗ったのに対し田高戦残念でした。

57 山中 孝二

小生も、柄にもなくできもしないソフトボールの部活動を生徒たち(中学生)とやっています。片目ですので、スベテ、カンでやっています。皆様、お元気で。

57 加藤 健三

折甲子園大会必勝  
侍医というのは交替勤務が容易でありませので、会場近くにおりながら、今年もまた総会出席もかなわず、残念でもあり申しわけないことも思っております。

57 島根 光明

お祈り申し上げます。  
お世話になり感謝しております。

58 沢西 浩

会費おくれて申し訳ありません。57年分も送らせて貰います。58回のゴルフコンペを企画していますが、仲々実行迄には程遠い

59 川田 昭

本会の運営に就いては深甚なる敬意と表します。  
母校は、本年栄光の甲子園代表校、活躍を祈るや切。

59 加藤 恵一

五十七年度総特費、大変おそくなりしました。どうぞよろしくお願い致します。

60 斉木 学

昨年六月より左記の所におります。ぜひ立寄って下さい。  
東京都新宿区西新宿二新宿三井ビル内  
日立化成工業(株)  
電子材料事業部長  
(〇三)三四六一三一一(代)

60 鈴木 明

住所変更  
同じアパート内ですが、一〇一から三〇三に移っています。

61 後藤 達朗

名簿をたよりに卒業以来の友人に会うことをたのしみにしております。  
高校野球は初戦でやぶれて残念でした。地方でも静高の試合はテレビで観戦し、とくに校歌斉唱はなつかしく聞きました。  
本会がますます発展するよう祈ります。

61 田中 義夫

大変御無沙汰致しており、また住所変更等で度々お手数を煩わし申訳ありませんでした。  
七月末に米岡への出張を終え、名簿訂正の住所に戻って参りました。また宜しくお願い致します。

61 君島 敏男

静岡/佐賀/神戸/名古屋/横浜/神戸/東京/川崎と転々となりましたが、五七年五月一日より川崎市に到着しました。  
勤務先も川崎汽船です。

61 黒川 泰三

久しぶりに甲子園出場おめでとございます。  
昭和十六年入学、十七年まで野球部で球拾いをした厳しい練習を思い出しております。

61 渡辺 宏一

戸塚キャプテン・八百投手・坪田ご兄弟等、よく学びよく練習したものです。元校長の諏訪先生が野球部長の時代でした。

61 渡辺 宏一

愚息渡辺護及び渡辺昇が静高卒業ですが、護のみ在京して居りますので連絡致して置きます。  
八十八期卒 渡辺 護

東京都世田谷区赤堤二ノ二ノ八  
池田マンション五〇二号  
昇(八十九期)も近々関東に戻  
りますので宜敷く。

64 馬場 泰男

会報有難うございます。ご高配  
心より感謝致しております。諸先  
輩皆様のご健勝お祈り申し上げま  
す。

64 松下 一男

区名が多摩区から麻生区に変更  
になりましたのでよろしくお願  
いします。

67 遠藤 一彦

今年と同窓会に出席できず残念  
でした。来年は必ず出席させて  
いただきます。今年32年ぶりに草  
薙球場へ行き県下の優勝決定戦の  
応援をし、岳南健児を歌ってきま  
した。甲子園では残念でした。来  
年は又頑張ってください。

67 小杉 謙一

夏の甲子園に出場を決定した県  
大会の模様をTVで見ることが出  
来ました。今年是非優勝を——  
と念じています。

67 原崎 恵三

此の二、三回程、都合で支部総  
会に欠席で残念ですが、次回は出  
席したいもの——と存じます。

66 菊田 聡裕

学舎もねやも焼け落つ夏の夢

ファイリピン道路交通訓練センタ  
ー首席顧問を終え日本に帰国し、  
一年半を送り、再び首都高速道路  
公団交通管制御部長として東京の交  
通渋滞と戦っております。

68 宇田 貞子

幹事の方々御苦勞様でございます  
。大変おしくて申し訳ございま  
せん。お茶代の足しにでもしてい  
ただきたい、僅かですが余分に送  
らせていただきました。

68 宇田 貞子

次回の同窓会には是非出席させ  
ていただきたいと楽しみにしてい  
ります。

68 鈴木 俊彦

言語障害という重病がなおり、  
現在、農村青壮年向け総合誌「地  
上」の編集を担当しております。  
どうぞよろしく。

68 河口 浩

勤務先が左記のように変わら  
した。

68 河井 良夫

次機には、ぜひ、集りに出  
席したく思っております。

67 原崎 恵三

銀座にお出かけの折は、どうぞ  
事務所のほうへお立寄りくださ

い。  
松坂屋東京本社  
TEL572-1111  
68 栗田 瑞夫

折々の関東での会合に時たま出  
席する程度ですが、いつも御鄭重  
に会報を送って下さり恐縮に存じ  
ます。

68 栗田 瑞夫

今後共、何卒宜敷くお願い申し上  
げます。  
尚、名簿訂正のように住所が変  
更になりました。

70 宮代 省一

いつも会報を楽しくなつかしく  
読ませていただいています。  
なかなか行事に参加する機会が  
なく残念ですが、そのうち是非と  
もお邪魔させていただき度いもの  
です。

70 石山 博

今年の夏は楽しみが出来た。そ  
れは静岡高校の甲子園出場であ  
る。やはり母校が出ていないと面  
白くない。静岡ナインの甲子園で  
の活躍を祈念。

70 富田 三樹

前略 ごめんください。会費が  
すっかりおくれ申しわけなく存じ  
ます。  
秋には静岡へ行けるとおもいま  
す。

70 西山 信三

ブリヂストンタイヤに勤務して  
おり、昨年は栃木県にあるテスト  
コースでタイヤの試験を担当して  
いました。今月からは東京小平市  
にある技術センターで工場公害防  
止の仕事をしています。  
都心から離れていますので、会  
合には出られず、ご無沙汰してい  
ます。

71 友田 勲

区名が宮前区に変更になりました。  
た。よろしくお願ひ申し上げます。

71 山崎 恭弘

「静中・静岡同窓会」に会費を  
払って居り、関東同窓会に払う必  
要はないと勘ちがいをして居りま  
した。申し訳ありません。尚、小  
生の弟も静岡を出て居りますので  
ご連絡頂ければ幸いです。

71 石川 安

名簿訂正のとおり住居表示が変  
わりました。

71 石川 安

川崎市の区制変更(五区から七  
区)によるもので、多摩区から麻  
生区に変わりました。宜しくお願  
いします。

72 石橋 伸之

前略 お世話様になっておりま  
す。イラクへ長期出張をいたして

72 寺尾 皖次

只今テレビ大阪に向向で関西に  
来ています。会報はいつも楽しみ  
にしています。石山前早大監督の  
一級上で野球をやっていました。  
昭和三十四年夏は第一シードでし  
ましたが、三回戦で市立商に敗れて  
しまいました。今の住まいから甲子  
園まで三十分の近さです。

76 鈴木 浩

幹事会には常に遅れまして申し  
訳ありません。今年の夏は静岡が  
甲子園出場権を得ましてテレビを  
楽しみにしております。幹事会等  
いつも御苦勞をおかけしておりま  
す。山田様、奥野先生、天候が大  
変不順ですのでお身体にお気をつ  
け下さい。

76 寺尾 皖次

只今テレビ大阪に向向で関西に  
来ています。会報はいつも楽しみ  
にしています。石山前早大監督の  
一級上で野球をやっていました。  
昭和三十四年夏は第一シードでし  
ましたが、三回戦で市立商に敗れて  
しまいました。今の住まいから甲子  
園まで三十分の近さです。

76 寺尾 皖次

只今テレビ大阪に向向で関西に  
来ています。会報はいつも楽しみ  
にしています。石山前早大監督の  
一級上で野球をやっていました。  
昭和三十四年夏は第一シードでし  
ましたが、三回戦で市立商に敗れて  
しまいました。今の住まいから甲子  
園まで三十分の近さです。

76 寺尾 皖次

只今テレビ大阪に向向で関西に  
来ています。会報はいつも楽しみ  
にしています。石山前早大監督の  
一級上で野球をやっていました。  
昭和三十四年夏は第一シードでし  
ましたが、三回戦で市立商に敗れて  
しまいました。今の住まいから甲子  
園まで三十分の近さです。

# 『旧師群像とヒーロー』 セツカチ先生

芹澤 正 憲 (43回)

## 徳育斗争のこと

第二に先生のユニークな教育キャンペーンとして勇名を轟かせた徳育斗争にスポットライトを当ててみよう。芥川竜之介によれば、人物批判は始め少しだけ褒めておいて、のだがしかしと断って、後は皮肉たっぷりになすがセオリードと云う。この発想を借りて、本稿も恩師とはいえ徒に甘口一辺倒に墮せず、香辛料をもたっぶりきかせてアマカラ両口の批判たらんと念願するわれらのわがままを許されたい。

この斗争は、先生がオール教師陣を相手に職員会議の孤児となりながらも、独り執念を燃し抜いた生涯斗争ながら、相手陣の人海戦術に圧倒されて、衆寡利あらず無念の臍を噛みながら玉碎された、いわば先生の屈辱と挫折の記録である。さりとて、先生から乃公出でずんばの自己顯示のつっぱりからイチャモンをつけたものではな

い。多年温存する持論の徳育に水をさされ分断されようとしたのをピンチと受けとめて、一匹オオカミとなり切つて敢然立ち向い、遂には刀折れ矢尽きた玉碎録でもあつたのだ。しかし、絶望に耐えた人間精神の極限を余すところなく開示した尊いドラマであり、また、獨創性あるメンタリテイにつながらないアイディアという視角から捉えれば名譽ある敗北と云わざるをえないだろう。依つて一連のドラマを齒に衣させずドキメンタリに追跡してみよう。

われらの頃の静中はすでに東海道屈指の名門校として名を馳せ、かつ進学校としてもレベル高く評価されていた。そのため、県下の辺境からも寄宿舎入りを覚悟してまで優秀生が押しかけ、中には県境を越えての入学組さえ稀れではなかつた。何れも静中を足がかりとして、さらに上級エリート校への突破口にせんと手ぐすね引くものばかりであつた。当時の慢性不

況の世相では、なまじ權威のない私大を出ても『学生ルンペン』に転落するのが関の山で、偏見に上級エリート校への進学の可否が学歴社会でのパスポートとなり将来の運命を決定づけていたからである。

こうしたバックグラウンドを反映して、就職組も申し合せたように反転したり、中には父兄らが低学歴の故に職場でキャリア組の上司に酷き使われた怨念を伴の代で晴らさんとの仇討的進学に挑戦するものもあり、この風潮に一層の拍車をかけた。

こんな学歴主義の温床には、すでに今日ある教育ママのハシリも芽生えて、駅弁大学ではダメよ、お子さんはどちらへときかれた時、ハイ〇大です。おかげさまで受かりました、と私が晴がましく答えられるような有名校目指せとわが子のシリをひっぱたくあけくれで、やがて受験目切迫の正念場ではエリート校バスイコール立身出世というテーマで母子の呼吸がピタリ一致した。

勢い教師側も、ペロタロッチの論理をひねくり廻して息の長い教育のノウハウを追求するよりも、差し迫つた受験競争に凱歌をあげて考課点数を稼ごうと、受験対応

の戦略に熱中したのも無理からぬところであつた。すでに戦略の一環として、当今のような偏差値重視傾向も早くも組入れられて、事前判定の精密化や落ちこぼれ生徒の線引きなど、またエリート校向きのモデルテストや出題傾向の割出しなどに狂奔して、教師としてよりも受験教育のカウンセラーの色が濃厚であつた。

このように、昭和初頭に早くもエリート校合格第一主義のコーラスがオール静中ファミリーの合言葉となり大手を振つてまかり通つたのも、静中の背負わされた数奇なる宿命ともいふべきではなからうか。

しかし、先生独りは、ネコモンヤクシも進学を目指すこんな風潮を大バカ三太郎時代到来と受止めて苦々しく思い、ウツウツとして楽しまなかつたのである。

先生は遠く文明開化の頃、教師拜命以来、人間教育のモチーフはあくまで徳育をバックボーンとなすべきである、徳育こそ教育のかなめ石である、この背骨を忘れた受験教育はこのかなめ石をなし崩しにしようとする病める教育である、この病理現象はやがて地獄に転落する吊鐘！と終始一貫難し

ろうとも教育者は智育偏重の詰め込み教育に墮らず、人間形成のゆとりと充実を眼目とした徳育を見失しなうことなく複眼で併せとらえて落ちこぼれ生徒の風化を防がねば理想の教師像とは云えない、という頑かな主張であつた。時流への警鐘として価値ある一つの見識と云うべきであろう。

先生がしばしば職員会議で提起したキャンペーンの持論は、まず教育の一環としての徳育を拉しき、受験教育とのかかわり合いを組上にのせて緊急命題として討議すべきである、と一石を投じて、その実施への有効な秘策は、人生問題などを捉えて生徒の親身なカウンセラーとなりながら肌の温くもりをチカにぶつけることが肝要であると説く。教えるものと教えられものの呼吸がピタリと合つて下地のリズム造りができた頃合を見計らつて、密度の濃いダイアログを交しつづつ徳化の浸透を計るべきである。即ち啐啄同機、卵がふ化するとき殻を中からヒナがつつくのどピタリ合わない健全なヒナは生れない、という金言を付度しての徳育のスキミング作戦とも云うべきものであつた。若き日哲学に傾倒した先生は、デカルトの方法序説のトリコになつて



なりながら、違ふ、違ふ、イデオロギーなどは滅相もない、社会主義の問答をしているわけじゃありません。神聖な徳育の問題に論及しているのですぞ！そんな的はづれの質問にはお答えできませんと、激しくクレームをつけながら、カキのようにおし黙ってしまつた。金風無欠揺ぎなき体制を愛し、社会主義イコール悪という短絡図式の頑迷なトリコとなつてい

る頑くかな姿勢に反撥したのか、口笛やら拍手やら喧ひいで応戦してきた猛爆にさらされた修羅場に立つた先生は、さすがはノンギャリアの星である！ひるまず追い討をかけようと迫るのを振り切つてこちらから借問しようとはばかり、

徳育に関連してワシの云わんとする要点は、みなさんが血道をあげている受験教育は人間形成の教育とは無縁の教育である。教育の大道を踏みはずしたヤマカン商法だと云っているのですぞ！決して空

の思いやりがどこにあるというのですか。天に唾する以外のなものでもない！こんな単純な道理が分らないようでは、みなさんは失礼ながら論語読みの論語知らずと云わざるを得ませんと！一同をグット腕めつめた。ついに山の石は転るがり出したのである。平生は温厚な君子も見事豹変して居直つたのは、ストイックな生き方からして想像もできぬ荒れかたであつた。

さすが論語読みの論語知らずとぶち嘯まされたのがアタマにきたらしく突如リーダーがストップ、ストップ！と大声をかけて大手を拡げて先生の開陳を遮りながら、シャットアウト策にでた。苦虫を噛みつぶしたような顔には、お師匠さんの徳育説教はもう沢山だ！あんまり凶に乗りなさんなよ、という口吻が油汗と共ににじみでいたようである。次いできょうはこれで討論打ち切りとして解散します、と一方的に押しかぶせるように宣言した。さすが諸先生をリードするだけあってリーダーは弁説もさわやかでオツムもまた明晰との定評があったが、風貌はいかにも魁偉、どうも眞面目に見ても、業平朝臣というわけには参らなかつた。天はアインシュタインのおツムとグレタガルボの容貌の二つは与えなかつたようである。すでに事前に教師間の暗黙の了解ができていたらしく、打てば響くようにストップ、グッドタイミング！ヒヤヒヤの音が喧ひすしく湧き上ると、次いで連鎖反動的に解散、OK、OK、待つてました、の甲高い声が喚めいた。耳を澄ませばその中には新旧教師間の意識のズレを遙かに超えたチャンバラ時代のお師匠さんの円月殺法ではないのか！というアニメ的なジョークさえ交つていたようである。互いに尊敬し合うべき師表間の角逐が一段とキナ臭くなって、どうやら霊長類ヒト科動物図鑑までに転落した様相である。

それから先生には目もくれず鶯鳥のように騒々しく室外に消えてしまったのも、どうやら陰の振付師の采配どほりにことは運んだようである。泰山鳴動して残るはハツカネズミ一匹！独り取り残された先生は、コップの中のアラシにすぎぬとはいえ、まるでクーデター騒ぎではないか！どう勘ぐつても予め仕組まれたシナリオどほりに運ばれたドラマに違いない。その演出に安々と乗せられたワシが浅はかだった、と身ぶるいしながら蒼白となつた。しかし一同のフ

ラストレーションが昂じてついに爆発点まで膨らんだと気付くと、改めて徳育をめぐる断層が、かくも亀裂を深くしていたのか、と師表たるべき身の至らなさ、弱さ、欠かんと反省して激しい屈辱感に襲われて、天を仰いで慟哭したのであつた。ついにトラは傷つき呻き声をあげたのである。

そんなハブニングを境として、燎原の火のように燃えていた先生の舌鋒がとみに鈍つてきたのである。オツムの毛は少くシワは多くの老化現象は領けるにしても、鋭い語録の炸裂もなく、バイタリテ

イも精彩も悉くを失つてしまったのは、なにかドラスチックなダメージを受けてのことに相違なかつた。それやこれやで、われらの時代の先生は、四面楚歌の孤狼を自嘲するうちに、星アンドンさながらに白け切つていた。

当時はまだ大正ロマンの花盛り時代で、顕示欲の強い教師が、われこそ、驕然の教育論議のけん引車！とばかり侃諤の論を派手にぶち上げていたものであつた。時折りはウタを忘れたカナリヤにも誘いの水がかかったが、すでにオールマイティの切り札の行使を諦めた先生は、トンと悪乗りする気配がなく、終始、われ関せず高！の

孤高の人になり切つていたのである。恐らくいまからではタイムイングを失しているし、徒に失笑を買うばかり、日暮れて道遠し！と深刻に観念しての黙示ではなからうか。これらの周辺についての事情通の先輩は、『先生の黙示は尻尾を巻いた負け犬根性からではないだろ。ただ、こうした論争の成否は同僚の支持があるかどうかできまるもの、孤軍での猪突では阿修羅となつても傷口を拡げるだけ、と判断して歯どめをかけたものであろう』と解説する。

いまや人は空しく質すすがはない。しかし半世紀後の今日、歪んだ構造の中で営まれた教育のため、潜在する欲求不満のハケ口を求めて吹き荒れる学校暴力のアラシや、非行に走る落ちこぼれ生徒の大量発生に手を焼いている世相を、先生は泉下でかいま見ながら『セ、セ、セリザワ君、わしの警告どほりの世の中になつたじゃろうが』と警告を無視して生徒の首に鈴をつけて落ちこぼれ生徒を仕分けした教師側の全面敗北であるといみじくも引導を渡して、極楽浄土すみからすみまで響け、轟けとばかりカンラカンラと高笑いされているのに違いない。

と云っているのですぞ！決して空理空論ではなく、現実への対応です。天国の夢物語りをしている訳じゃありませんぞ。ことに事前判定による偏差値重視などはオチコボレ生徒の線引きで、正にトカゲのシッポ切り。なによりも生徒とのかかわり合いが決定的に欠落している。しからば教育の弱者救済

の思いやりがどこにあるというのですか。天に唾する以外のなものでもない！こんな単純な道理が分らないようでは、みなさんは失礼ながら論語読みの論語知らずと云わざるを得ませんと！一同をグット腕めつめた。ついに山の石は転るがり出したのである。平生は温厚な君子も見事豹変して居直つたのは、ストイックな生き方からして想像もできぬ荒れかたであつた。

さすが論語読みの論語知らずとぶち嘯まされたのがアタマにきたらしく突如リーダーがストップ、ストップ！と大声をかけて大手を拡げて先生の開陳を遮りながら、シャットアウト策にでた。苦虫を噛みつぶしたような顔には、お師匠さんの徳育説教はもう沢山だ！あんまり凶に乗りなさんなよ、という口吻が油汗と共ににじみでいたようである。次いできょうはこれで討論打ち切りとして解散します、と一方的に押しかぶせるように宣言した。さすが諸先生をリードするだけあってリーダーは弁説もさわやかでオツムもまた明晰との定評があったが、風貌はいかにも魁偉、どうも眞面目に見ても、業平朝臣というわけには参らなかつた。天はアインシュタインのおツ

ムとグレタガルボの容貌の二つは与えなかつたようである。すでに事前に教師間の暗黙の了解ができていたらしく、打てば響くようにストップ、グッドタイミング！ヒヤヒヤの音が喧ひすしく湧き上ると、次いで連鎖反動的に解散、OK、OK、待つてました、の甲高い声が喚めいた。耳を澄ませばその中には新旧教師間の意識のズレを遙かに超えたチャンバラ時代のお師匠さんの円月殺法ではないのか！というアニメ的なジョークさえ交つていたようである。互いに尊敬し合うべき師表間の角逐が一段とキナ臭くなって、どうやら霊長類ヒト科動物図鑑までに転落した様相である。

それから先生には目もくれず鶯鳥のように騒々しく室外に消えてしまったのも、どうやら陰の振付師の采配どほりにことは運んだようである。泰山鳴動して残るはハツカネズミ一匹！独り取り残された先生は、コップの中のアラシにすぎぬとはいえ、まるでクーデター騒ぎではないか！どう勘ぐつても予め仕組まれたシナリオどほりに運ばれたドラマに違いない。その演出に安々と乗せられたワシが浅はかだった、と身ぶるいしながら蒼白となつた。しかし一同のフ

と云っているのですぞ！決して空理空論ではなく、現実への対応です。天国の夢物語りをしている訳じゃありませんぞ。ことに事前判定による偏差値重視などはオチコボレ生徒の線引きで、正にトカゲのシッポ切り。なによりも生徒とのかかわり合いが決定的に欠落している。しからば教育の弱者救済

先生のように孤軍よくオール教師群を相手に受験專一のターゲット教育をば断絶の教育商法であるとかき下し、キャリア教師陣を論語読みの論語知らずとすごい迫力でナレートした挙句、全員総退場というサスペンスを突出させたほど、徳育を全能の神の座にシードさせた教師が他に一人でもあるだろうか。いまや、この燎原の火も歴史の帳の中に隠されてしまったが、恐らく、一世紀の静中校史の中で先生をもって嚆矢とするものではないだろうか。

教官服のこと

われらの静中時代は、今日日本人の耳に快よく響くジャパン・アズ・ナンバードンなどの外よりのオペンチャラは遠い夢の国のはなしで、日本経済はポロポロに綻びて不景気のドン底にぐ昭和恐慌の真只中であった。世界経済がスタグレーションに悩まされたわけではなく、関東大震災という、突如天から降った悪魔のツメでズタズタに引き裂かれた日本だけの貧乏籤であったのだ。

あの頃のことを思い起すと、いつもお披露目やの三味線、鉦、太鼓のチャンボン狂騒曲が『いっそ小田急で逃げましょうか、チャン

チキ、チャンチャン』などと我鳴り立てているのがきこえてくるのはなぜであろう。両替町から中の店辺りの路地から路地を縫って、泣いているようなうらんでいるようなメロディを流しながら立ち止まる辻毎に『とうざい、東西！』と勘高く喚く背中には、店仕舞い二束三文、もって行け！などの悲壮なビラが師走の風にヒラヒラしていた。

そんなドン底にも、大正ロマンの残滓が不死鳥のように生き残っていたのか、盛り場にはエキゾチシズムの落し嵐、カフニーなるものが雨後の竹の子のように叢生しだした。見やれば、野暮など意見ご無用です！とばかりに流行の耳隠しにセットした毒グモのような化粧の女給が、エプロン姿で艶笑をふりまく店内からは『出るに出られぬカゴのトオリ』などの挑発メロデーがくすぐるよう流れてくる。そうした七千万総白痴時代であったから、『質実剛健』などという鉄のカタマリのような校訓は、マジメ人間へのアイロニーぐらいに茶化されてどこへやら。勢い先生方のお召しものもダンディを競い、片やア・ラ・モードのニューファッションを着こなされて肩で風切るA先生、こなたバレンチ

ノ張りのもみあげをセールスポイントとするB先生はオーデコロンの芳香をそこはかとなくふりまきながら、また陽もお高いのにインソとご帰館というていたらく。しかし男のオシャレなどはビヤダル紳士の脆肉落しぐらいに考えていた先生は、へのへのもへじ、あした天気になあれ、と軽口を叩かれようが寺小屋時代のチャンバラお師匠さんと侮蔑を投げられようが馬耳東風、百鬼夜行の時代なればこそ、そとづらはカッコ悪くとも心底はほのぼのと奥ゆかし

く、と偏に質実剛健の校訓を、しかと胸に抱きしめて、ひたすら温めつつけていたのであった。のみならず、校訓の墨守を姿かたちで示そうと鎧甲姿で登校して、集中する世間の奇異の瞳を挑ねのけて敢て憚らなかつたのである。鎧甲姿とは日清戦役後の軍国華やかな時代に文部省が制定した中学教師のユニホームスタイルのことで、そのころの校友会誌の巻頭を飾るオール教師群像のスナップに異彩を放つように、その海軍士官スタイルの制服は自来、大正時代にそのまま持ち越されて、冷く海軍先生さんと市民に馴染まれた服制であった。世が大正ロマンの時代に突入するや、デモクラシイの洗礼

を受けたハイカラ先生から、いつまでも軍国の象徴の鎧甲姿でもあるまい、時代錯誤である、新秩序の醸す酒は新しい革袋に、とのプロテストがあり、文教の府も我執を折って服制自由化が発令され、哀れ弊履のように見捨てられた斜陽の服制であったのである。新秩序の導入にはいつの時代にも多少のギクシャクは避けられないようであるが、当局のこの英断が旧套脱皮への即効のカンフル注射となつたと云うわけでもなかつたが、

自由化時代へ突入の遅効的なビタミン注射の役割ぐらいは果たしたようである。したがって昭和元禄の自由謳歌時代に、アナクロニズムの象徴のような軍服を着用して駿府城下を睥睨しながら、サツソウと肩で風を切られたのは、静中はおるか県下でも先生唯一人ではなかつたろうか。しかも、ツルツルのオツムの上に星形の校章を輝かせた軍帽をアマダにかぶって、雨にも負けず風にもめげず、お腰につけた日の丸弁を後生大事に、生徒らのたわむれた囁子唄「チョンキナ、チョンキナ、チョンキナ、チョンキナ」を背中にも浴びながら、その狂騒テンポに乗り切った足取りでニューモラウスに登校されたものである。

途中、出合う生徒にはモナリザの微笑ふりまくと思いきや、ガクリとポーズを引き締めて、青い光刺すトラの目でジロリ一瞥、パッと直立不動の姿勢に早変わりして挙手の敬礼を返すという百面相ぶり。その異様な一挙止一投足はいつしか市民にも親しまれて静岡名物となり、セツカチ先生ご存知ない駿府城下じゃモグリづら、と口さがない静岡スズメに囁かれたものである。

思えば、文明開化の明治初頭から軍靴轟く帝國主義時代の洗礼を経て、大正ロマンの華咲くデモクラシイのハードルを乗り越え、昭和のアンチ・テーゼの混沌時代へと突入という激動の空間を流れ星のようにさまよい歩かれた先生。じつと凝視していると、どこか太陽の光りと隔絶された真青な深海で微光を発しながら遊泳している幻の魚に巡り合ったような、摩訶不思議な幻のトリコとなるわれらでもあった。

ともあれ、きのうのネガティブはきょうのポジティブとくるくる廻る社会情勢の下で、澱みに浮ぶウタカとはならず、エモウシヨナルなヒューマニズムを掲げて校訓の質実剛健を拳々服膺されたのは、げに感なるかな、と絶賛を惜

しまないものである。しかも、そのあかしとして、軍国時代に制定されたアナクロニズムの権化の軍服まがいの制服を、昭和元禄オイスさま謳歌の泰平ムードの世までひたすら愛惜して離さず、みまかる当日まで押し通されたのは、百年の静中校史で恐らくセツカチ先生唯一人であろう。このユニークなフアクターは正に先生の独壇上であり、空前絶後のレコードとなるものであろう。

五七年度会費拠出者

期別

- 二四 木呂子誠一
- 二七 丸山毅夫
- 二九 鈴木鋭児
- 三一 鈴木栄一、塚田英夫
- 三二 前田鉄三、岡本敏興
- 三三 幡野儀作
- 三五 畔柳安雄、伊藤信夫、永野清
- 三八 石割正、伊藤敏夫、大村秀雄
- 三九 増井四郎、仲田正午
- 四〇 野崎操一、杉本四朗、増田完五
- 四一 高木三吉、鈴木篤、山田栄一
- 四二 井出多米夫、岩崎康、岩波信平、田中治、宮崎忠輝、
- 四三 今井志郎、芹沢正憲、西沢純三、吉江誠一、小河直人
- 四四 白井茂、長田寿雄、佐藤文三、高橋真一、増井陸郎、村井東助、増井三郎、野間省一、堀豪三、小沼武、望月嘉太郎
- 四五 大石清、柏木千秋、草野哲
- 四六 岩崎与五郎、内山規
- 四七 今関智吉、片山正二、亀山敏男、志田千春、杉山栄一
- 四八 賢、鶴米忠雄、原崎進一、
- 四九 伊藤徹次郎、上杉一郎、小林道雄、菅沼栄、曾根重四郎、長井広、石田大二郎(2)
- 五〇 丸尾文治、森芳夫、緑川俊徳、村松喬、江川友治、梅村魁、大塚武、益田竜也、一一彦
- 五一 永井五一郎、渡辺功、小塩洋太郎、原崎郁平、寺尾利男、田中賢一、佐伯正剛
- 五二 菅米地一樓、佐藤昌武、直原澄衛、高沢雪雄、茂呂茂樹、大草知久
- 五三 大石巖、奥野孝、小野一夫
- 五四 芳男、徳永悠久、橋本久仁
- 五五 福永正美、寺尾睦之助、伏見賢治郎、日比野悦三、黒水高典、岩崎鑑一、太田正元、河村祥、大橋広世、北村三明、興津幸四郎、松岡喜郎、青木香
- 五六 青木良文、奥野進、佐野豊彦、清水逸郎、杉原泰二、横森桂、伊藤象一、原田昇左右、伊東卓爾、篠原水穂小坂椰子朗
- 五七 天野喜久雄、池谷秀雄、影島利邦、杉山正友、藤巻重男、月見里礼次郎、富田澄高橋礼久、鈴木克己、酒井博、島根光明、坂田秀雄、加藤健三、山中孝二、平谷久、久保田誠三、岩井平一郎
- 五八 奥野広、鈴木栄三、林慎、服部健一、沢西浩、末広照男
- 五九 青山勇、奥沢徹、狩野和男
- 六〇 上杉重吉、柴田正臣、高田隆祐、原俊、渡辺清夫、萩原莊平、山崎鏡次、逸見昭三、山本雅之助、原田竜二
- 六一 清水泗郎、高村岳史、坪田昭三、福田英雄、青島正和
- 六二 若林義男、花見久、仲野辰男、黒川泰三、宇都宮道和
- 六三 赤羽昭二、浅野徹治、芹沢博樹、中尾昭、後藤達朗、田中義夫、末吉晴夫、西田哲夫
- 六四 喜田重久、寺尾睦之助、萩原莊平、山崎鏡次、逸見昭三、山本雅之助、原田竜二
- 六五 鈴木正己、鈴木明、笠間達男、有田克己、新聞昌輝、大石隆一、齊木学、里見元一郎、君島康弘
- 六六 清水泗郎、高村岳史、坪田昭三、福田英雄、青島正和
- 六七 若林義男、花見久、仲野辰男、黒川泰三、宇都宮道和
- 六八 赤羽昭二、浅野徹治、芹沢博樹、中尾昭、後藤達朗、田中義夫、末吉晴夫、西田哲夫
- 六九 伊藤徹次郎、上杉一郎、小林道雄、菅沼栄、曾根重四郎、長井広、石田大二郎(2)
- 七〇 丸尾文治、森芳夫、緑川俊徳、村松喬、江川友治、梅村魁、大塚武、益田竜也、一一彦
- 七一 永井五一郎、渡辺功、小塩洋太郎、原崎郁平、寺尾利男、田中賢一、佐伯正剛
- 七二 菅米地一樓、佐藤昌武、直原澄衛、高沢雪雄、茂呂茂樹、大草知久
- 七三 大石巖、奥野孝、小野一夫
- 七四 芳男、徳永悠久、橋本久仁
- 七五 福永正美、寺尾睦之助、伏見賢治郎、日比野悦三、黒水高典、岩崎鑑一、太田正元、河村祥、大橋広世、北村三明、興津幸四郎、松岡喜郎、青木香
- 七六 青木良文、奥野進、佐野豊彦、清水逸郎、杉原泰二、横森桂、伊藤象一、原田昇左右、伊東卓爾、篠原水穂小坂椰子朗
- 七七 天野喜久雄、池谷秀雄、影島利邦、杉山正友、藤巻重男、月見里礼次郎、富田澄高橋礼久、鈴木克己、酒井博、島根光明、坂田秀雄、加藤健三、山中孝二、平谷久、久保田誠三、岩井平一郎
- 七八 奥野広、鈴木栄三、林慎、服部健一、沢西浩、末広照男
- 七九 青山勇、奥沢徹、狩野和男
- 八〇 上杉重吉、柴田正臣、高田隆祐、原俊、渡辺清夫、萩原莊平、山崎鏡次、逸見昭三、山本雅之助、原田竜二
- 八一 鈴木正己、鈴木明、笠間達男、有田克己、新聞昌輝、大石隆一、齊木学、里見元一郎、君島康弘
- 八二 清水泗郎、高村岳史、坪田昭三、福田英雄、青島正和
- 八三 若林義男、花見久、仲野辰男、黒川泰三、宇都宮道和
- 八四 赤羽昭二、浅野徹治、芹沢博樹、中尾昭、後藤達朗、田中義夫、末吉晴夫、西田哲夫
- 八五 伊藤徹次郎、上杉一郎、小林道雄、菅沼栄、曾根重四郎、長井広、石田大二郎(2)
- 八六 丸尾文治、森芳夫、緑川俊徳、村松喬、江川友治、梅村魁、大塚武、益田竜也、一一彦
- 八七 永井五一郎、渡辺功、小塩洋太郎、原崎郁平、寺尾利男、田中賢一、佐伯正剛
- 八八 菅米地一樓、佐藤昌武、直原澄衛、高沢雪雄、茂呂茂樹、大草知久
- 八九 大石巖、奥野孝、小野一夫
- 九〇 芳男、徳永悠久、橋本久仁
- 九一 福永正美、寺尾睦之助、伏見賢治郎、日比野悦三、黒水高典、岩崎鑑一、太田正元、河村祥、大橋広世、北村三明、興津幸四郎、松岡喜郎、青木香
- 九二 青木良文、奥野進、佐野豊彦、清水逸郎、杉原泰二、横森桂、伊藤象一、原田昇左右、伊東卓爾、篠原水穂小坂椰子朗
- 九三 天野喜久雄、池谷秀雄、影島利邦、杉山正友、藤巻重男、月見里礼次郎、富田澄高橋礼久、鈴木克己、酒井博、島根光明、坂田秀雄、加藤健三、山中孝二、平谷久、久保田誠三、岩井平一郎
- 九四 奥野広、鈴木栄三、林慎、服部健一、沢西浩、末広照男
- 九五 青山勇、奥沢徹、狩野和男
- 九六 上杉重吉、柴田正臣、高田隆祐、原俊、渡辺清夫、萩原莊平、山崎鏡次、逸見昭三、山本雅之助、原田竜二
- 九七 鈴木正己、鈴木明、笠間達男、有田克己、新聞昌輝、大石隆一、齊木学、里見元一郎、君島康弘
- 九八 清水泗郎、高村岳史、坪田昭三、福田英雄、青島正和
- 九九 若林義男、花見久、仲野辰男、黒川泰三、宇都宮道和
- 一〇〇 赤羽昭二、浅野徹治、芹沢博樹、中尾昭、後藤達朗、田中義夫、末吉晴夫、西田哲夫

話題のスペース  
(明治通りと大久保通りの交叉点)

レストラン・モア

小人数から30名様くらいまでクラス会等に最適です

土屋 晃 康 (67回陸上)

TEL 03-208-2931・204-1251

東京都新宿区大久保2-1-3

駿之介、黒川泰三、君島敏夫、山崎和夫

六二・六三 柴田正年  
六四・六五 岩本吉雄、長島健、仲野美、名波倉四郎、野沢正憲、山本光夫、栗田行雄

増田政雄、渡辺宏一、渡辺進式、吉井駿亮、山本和彦

六六 石川恰二、河守輝雄、小林五郎、田中俊男、原野谷朋可、増井和夫、武藤勇、山下智康、加藤博司、北村友孝、田村尚、森山秀夫、三原載、早見幸雄、永島秀次

郎、仲野道雄、菅原肇、大塚修弘、尾入泰彦、中村伸吾、村越立彦、曾根錦吾、菊田聡裕、藤原朝則

六七 朝倉勇、大石脩而、岡村英二郎、加藤友行、梶原由三

川上剛二、小坂博、児島英男、鳥居滋夫、成岡英彦、福原享一、矢部隆、吉野享

岩崎為明、田島一男、土屋博、増田安国、黒田秀幸、高仲建男、松本安子、朝比奈正三、増田正高、田中映吾、遠藤一彦、向井久和、原崎恵三、小杉謙一

六八

岩瀬順郊、神保尚司、鈴木直方、立花雅一、星野敏郎、吉崎英輔、荒谷じつ子、大岡功忠、大神安雄、若山光子、宇田貞子、仁科将、鍋田邦彦、中村睦、安藤昌、鈴木敏彦、河口浩、栗田瑞夫、丸尾敏夫、福地康二、塚本浩司、大川庄治

六九

田中輝雄、辻照雄、村山禎男、神谷貞子、松島玲子、小林泰三、原田淑子、田川邦子、原英子、萩野嗣人、大石雄吾、藤田良次、高林彰夫

七〇

川端正良、小林孝光、関哲男、長倉良松、中村竜二、望月智隆、渡辺勝美、松岡武三郎、清水今一郎、宮本達司、調子達郎、藤波はるみ、中馬敏雄、松山多美、藤巻貞夫、西山信三、鈴木明次、三枝竜雄、小嶋国彦、大草敏郎、小佐野栄雄、石山博、河井良夫、小山清継

七一

谷川治弘、宮代省一、富田三樹、大場良臣、岩崎修、海野幸雄、佐藤利治、実石欣哉、松原徳満、後藤弘枝、曾根幸一、青木庄二郎、山田卓夫、西野章

谷津正次、酒井力、小池啓治、加藤祐史、安藤竜男、石川宏、清水安晃、斎藤哲志、片山嘉博、友田勲、森川滝太郎、徳田武司、山崎恭弘

七二 桜井亮介、桜井保秋、桜井正之、鈴木忠雄、夏目雅之、丸山安彦、三村修一郎、石橋伸之

七三 石川八洲夫、近藤守、佐々木勝彦、後藤孝子、中西英一、杉山光、望月公美、麻生貞敏、中川明久、古井大朗、大村博、松下勝朗、望月智、深尾皓、服部信司

七四 栗田進伍

七五 勝間田武司

七六 今村勝彦、富田駿介、伊藤征、鈴木浩、寺尾皖次

七七 加藤重信、森正毅、大岩蓮平、岩正史

七八 野毛宏

七九 影山博章、本間一宏

八〇 伊賀野剛、片岡敏晃、渡辺寧、松永美三子、堀池浩行、加畑勝之

九六 安間大芳、秋山博一、稲垣

修、梅原功、奥田規之、加藤英樹、岸生也、絹村雅彦、佐藤智之、酒井徹、三川義明、杉山久也、萩原厚、原田健介、房前督明、細沢優

宮田佳明、渡辺俊之、山崎健二、渡辺正樹、片田聡、青柳朱実、片山麻子、甲斐洋子、神山京子、小林昌子

齊藤理恵子、里見美香、沢入美里、清水寿子、山本茂未、石川智子、小林千鶴子

細道春美、鈴木わらび、石田雅彦、岩本義範、杉森正吾、土屋敦、山村智、山本東、鍋田記久乃、大石万里、水谷善之

九八 漆畑武彦、河村吉輝、菊地洋太郎、小山悦伸、小泉博嗣、重村武、鈴木統之、鈴木裕康、高田計、坪井泰憲

九八 花村真一、増本真明、松本有二、室田真男、本村一、森克祥、谷沢寿彦、鈴木深潮、天野由紀子

(敬称略期内順不同)

前回歸切後本年十月十五日までに到着の五七年度分会費。

総合広告代理店

株式会社 ア ド プ ロ

代表取締役 朝比奈正三 (67回)

東京都千代田区内神田3-4-5 岡崎ビル3階

TEL 03-254-2171 (代表)

内科・外科・整形外科・皮膚科・放射線科  
人間ドック

熱 函 病 院

院長 小坂博 (67回)

住所 熱海市春日町12-2

TEL 0557-83-3131

建築設計・監理

### 株式会社 ユニオン設計センター

代表取締役 成岡英彦 (67回)

一級建築事務所登録7425号

東京都新宿区西新宿7-14-9 規格ビル  
TEL 03-363-8604 (代表)

同窓会コンペなど、ご相談ください。

### 伊豆大仁カントリークラブ

### 伊豆大仁開発株式会社

代表取締役 石橋正秋

取締役支配人 安田正弥 (66回)

静岡県田方郡大仁町浮橋字南松坂1198-1  
TEL 0558-76-2401 (代表)

### 新東京印刷株式会社

代表取締役 梶原由三 (67回)

東京都中央区八丁堀2-1-7

神鋼ビル

TEL 03-553-8981 (代表)

建築設計・監理

### 株式会社 奥野建築設計事務所

取締役会長 奥野孝 (53回)

取締役社長 奥野進 (56回)

取締役副社長 吉川善吉 (56回)

本社 東京都台東区寿2-5-12 加瀬ビル  
TEL 03-842-6831 (代表)

静岡事務所 静岡市安東2-8-14  
TEL 0542-46-9378

建築コンサルタント・設計施行业務  
建築に関する御相談は御気軽に……

### 株式会社 大雄

取締役社長 奥野孝 (53回)

取締役営業部長 奥野広 (58回)

本社 東京都台東区東上野2-18-7 共同ビル10階  
TEL 03-834-5331 (代表)

### 昭和56年度 静中・静高関東同窓会決算書

(S 56.4.1~S 57.3.31)

I 収入	
55年度繰越金	886,577円
〃年会費 (58名)	112,000円
56年度年会費 (944名)	1,829,000円
57年度年会費 (14名)	28,000円
広告料	360,000円
寄付金	25,000円
雑収入	8,400円
預金利息	19,937円
計	3,268,914円
II 支出	
会報	440,000円
名簿	821,000円
郵送料	721,070円
印刷費	112,500円
人件費 (アルバイト料)	100,000円
寄付金	30,000円
消耗品費	71,000円
事務用品費	4,170円
通信費	1,820円
雑費	6,750円
会合補助費	215,230円
計	2,523,540円
III 残高 (次年度繰越)	745,374円

上記監査の結果適正であることを認めます。

昭和57年4月15日

監事 村松直  
監事 村井東助

### 昭和57年度 事業計画

- 総会 年1回
- 顧問会 年1~2回
- 幹事会 年5回位  
顧問会と幹事会は合同でやる場合もあります。
- 会報の発行 年2回 (6月・11月発行)
- 懇親会 ゴルフ大会 (年2回)  
釣り大会、ハイキング大会 (年1回) 等

### 昭和57年度 静中・静高関東同窓会予算

(S 57.4.1~S 58.3.31)

I 収入	
繰越金	745,374円
年会費 2,000円×1,000人	2,000,000円
広告収入	360,000円
計	3,105,374円
II 支出	
会報発行費	540,000円
消耗品費	70,000円
郵送料	750,000円
印刷費	200,000円
人件費	100,000円
事務用品費	5,000円
レクリエーション助成費	50,000円
会合補助費	250,000円
予備費・繰越金	1,140,374円
計	3,105,374円

## 鈴与株式会社

取締役会長 鈴木与平 (44回)

清水市入船町11-1

TEL (0543) 53-3111 (大代表)

## トッパン・ムーア株式会社

取締役社長 宮澤次郎 (42回)

東京都千代田区神田駿河台1-6

TEL (295) 2411 (大代表)

## 凸版印刷株式会社

東京都台東区台東1-5-1

TEL (833) 2111 (大代表)

## 株式会社 講談社

取締役名誉会長 野間省一 (44回)

東京都文京区音羽2-12-21

TEL (945) 1111 (大代表)

## 株式会社 東電社

取締役社長 岩波信平 (42回)

東京都中央区日本橋2-1-21

TEL (271) 2701 (大代表)

## セリ企業グループ

代表者 芹澤正憲 (43回)

(株)銀座瀬里 (573) 4031~3  
(株)セリ.エンタープライズ (574) 7295~6  
(株)タカ.セリ (572) 6881~2  
(株)ニュー.セリ (571) 4588・6255  
(株)セリ.プレイング.マシン (462) 38-0571 (代)

川根銘茶

## 三保乃園山菅茶店

山菅章雄 (53回)  
(村松正七)

東京都港区南青山1-20-6

TEL 03-403-5760

## 本田技研工業株式会社

川島喜八郎 (52回)

東京都渋谷区神宮前6-27-8

TEL (499) 0111 (大代表)

## 日本レーベル印刷株式会社

代表取締役 岩井平一郎 (57回)

本社 静岡市国吉田645

TEL 0542 (62) 1111 (代)

東京 中央区京橋1-2越前屋ビル

TEL 03 (272) 4651 (代)

## 新日本証券株式会社

取締役社長 大石 巖 (53回)

東京都中央区日本橋1-17-10

TEL (273) 2311 (大代表)